

巻 頭 言

世界精神医学会での活動

秋山 剛 日本精神神経学会理事
Tsuyoshi Akiyama

昨年9月にプラハで開かれた世界精神医学会総会で、常任役員(財務担当)に当選いたしました。常任役員は8名で、構成は、会長、副会長(次期会長)、事務局長、教育担当、出版担当、財務担当、学会担当、分科会担当です。任期は6年で、3年ごとに4名が改選されます。

世界精神医学会は1950年に設立されましたが、これまで、アジア諸国出身の常任役員はいませんでした(1993年に、香港のFelice Lieh-Mak先生が会長を務められましたが、香港は当時英国領でした)。私が当選できたのは、日本精神神経学会の活動が高く評価されているからです。そのため、いろいろな地域の学会からの支持を得ることができました。

世界精神医学会は、会長Mario Maj先生(イタリア)のリーダーシップのもと、Action Plan 2008-2011として、いくつもの分野で強力な改善策を推し進めています。

1. 精神医学のイメージの改善

政策立案者、医療関係者、一般大衆における精神医学のイメージがポジティブでなく、受療の遅延などが起きているのは世界共通の問題です。この問題に対して、①マスメディア関係者を雇用し、トピックとなる学会発表をマスコミに流す一方、事件が起きて精神医学的視点からコメントを求められた時のために準備を進めておく、②精神医学のイメージを改善するための助成研究を公募する、③偏見を改善するためのガイドラインを作るタスクフォースを結成する(私と国立精神・神経センター保健研究所の鈴木友里子先生もメンバーです)、④ベストプラクティスを、世界的な規模で収集し発表する、⑤うつ病と身体疾患の関係について、他の医学会と連携して啓発を進める、などの活動を行っています。

2. 各国の学会への支援

各国の学会が、①政策立案者への提言、②ガイドライン、

倫理綱領、研究プロトコルの作成、③卒前・卒後教育カリキュラムの改善、④精神科医、プライマリー医のための生涯教育、⑤学会組織の改善、などを円滑に行えるよう援助しています。フィレンツェの国際大会では、英国の学会が、これらの問題についてプレゼンテーションを行いました。

3. 情報の伝達

世界の各地域の精神科医に情報が十分に伝達されるように、①世界精神医学会と各国学会の共同主催によるワークショップ、②オンラインのCMEコース、③主要なガイドラインの各国語への翻訳、④学会誌であるWorld Psychiatryのより広範な配布、⑤発展途上国の学会誌確立への援助、などが行われています。

4. 若手精神科医の育成

若手育成も世界に共通した課題です。①先進国の研究・教育機関の協力を得て、発展途上国の若手精神科医に対する1年間のスカラシップを提供する、②若手精神科医のリーダーシップトレーニングのためのワークショップを開催する、③Early Career Psychiatrist Councilを再興する、などが進められています。

5. 精神医療とプライマリーケアの統合

発展途上国において、プライマリーケアのスタッフを育成することができる「training the trainers」が行われています。最初の研修会は、ナイジェリアで行われました。

これらの活動は、WPA単独ではなく、WHOとの協働という形で行われています。世界の精神医学、精神医療が変化、進歩していく中で、日本をはじめとするアジアの学会が、より大きな貢献できるように、パイプ役になればと思っています。日本の精神医学、精神医療の優れた点が、世界という舞台の中で、より美しく輝くようになれば——それが私の願いです。